

(6) 2019年(平成31年) 2月28日(木曜日)

最近「八年越しの花嫁」という映画を見ました。

2カ月後に結婚する予定だった女性が突然難病にかかり数カ月間危険な状態が続きました。もちろん結婚式どころではなくなり婚約者も家族も彼女の回復を信じて待ち続けました。そして発病から8カ月以上たつて少しずつ回復の兆しがありました。病気が難は残っていました。病気が原因で彼女の記憶が数年間失われてしまい婚約者のことも結婚のことすら思い出せなくなりました。しかし婚約者はこの女性の側で献身的に看病を続けました。ゼロから愛を育んでいく...という物

語ですがこの映画は実話ともなっています。とても感動し、またさまざまなことを考えさせられました。ところで、私は牧師として

南加キリスト教教会連合

回復への愛

市川 祥

語ですがこの映画は実話ともなっています。とても感動し、またさまざまなことを考えさせられました。ところで、私は牧師として

いうことが書かれています。しかし希望があります。なぜなら私たち人間が持つべき真の「生きる目的」と「命の理由」をもう一度取り戻すことが出来るように神は「わたしはあなたをみなしごにしない」「あなたに思い出させる」(ヨハネ14章)と呼び掛けています。

この映画の中で婚約者の男性は献身的に女性のリハビリを手伝いますが女性にとってはこの男性が誰かもわからず「なぜこの人はここまで自分にしてくれるのだろう」と戸惑います。しかし彼はあきらめないうのです。

聖書の神も記憶喪失にかかった人間に対して「わたしはあなたを愛している」「わたしはあなたと一緒にいる」と絶えず声をかけているのです。聖書の本質はなにか？ といえればそれは「回復」です。そうです。誰でも「生きる目的」を取り戻せるしやり直せる。どんなに八方ふさがりの状態の中にも神は光を当てる事が出来るのです。聖書を読んでください。そしてあなたが「じぶんは誰であるのか？ またどれほど神に愛されている存在か？」という事を思い出してください。(カマリロ日本人教会牧師)